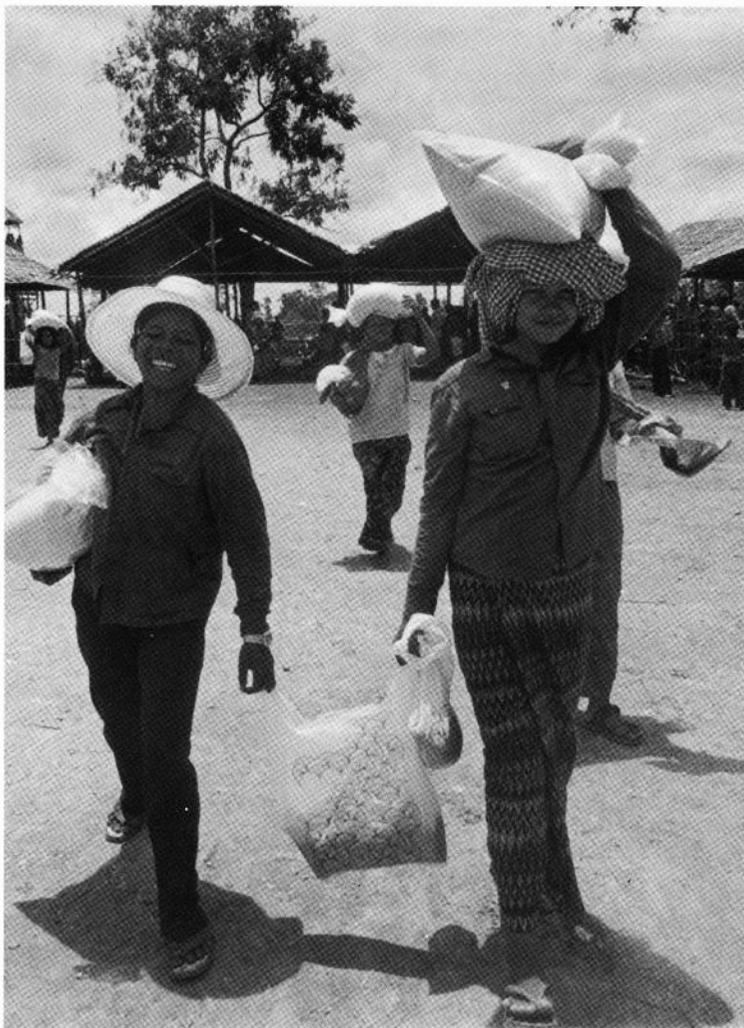


難民救援情報誌

# Trial & Error

トライアル・アンド・エラー

—— 試 行 錯 誤 ——



- 自動車整備学校、フル回転
- ソマリアを訪れて

走れ、ポンコツぐるま—————!!

## 自動車整備学校、フル回転

JVCは現在ウボン、カオイダンの両キャンプで自動車整備学校を運営している。カオイダン校は開校以来1年がたった。

### ●将来の自立のために

カオイダンキャンプの自動車整備学校では約120名のカンボジア難民が学んでいる。モーターバイク・小型エンジン・自動車・牛車・電気・理論講義の5つのコースを合計3ヶ月間受講する。この他、ウボンキャンプでは四輪車も教えている。

JVCのボランティアは日本人3名タイ人1名で、運営全般や技術的助言を行なっている。カンボジア人スタッフは36名で、そのうち29名の教師が直接生徒を教える。

授業はすべてカンボジア語を使う。というのは、この学校は、いずれカンボジアへ帰還する人たちが対象として運営されているからだ。ラオス難民キャンプウボンの自動車整備学校では第3国へ定住する人たちにも役立つように部品名などは英語で教えているが、ここでは一切使わない。そのために開校当時、理論担当の教師が苦労をしていたようだ。教材としてあったのは英語とタイ語の修理技術書で、黒板で講義するためには、それをカンボジア語に訳さなければならなかった。しかし、カンボジア語には、そういった技術用語の語彙が少なく、なかなか作業がはかどらなかったのである。

5つのコースの中で特色のあるのが牛車コース。カンボジア人教師一人が、その作り方を教えている。農業国カンボジアでは、まだまだ牛車は人や物資の



カオイダン自動車整備学校の実習風景

輸送の担い手である。実際、帰還者にとってはこのコースが最も役立つかも知れない。

入学者を募集すると、いつも何倍もの希望者が殺到する。面接を行い、ハンディのある最も援助を必要としている人々、身障者、身障者の家族、孤児、母子家庭の者、家長、高齢者を優先して入学者を決めている。UNHCRの調査では、生徒の中に身障者が占める割合は、この学校が最も高いそうである。また、ここでは女性も多数学んでいる。

今年9月までに約500名の卒業生を出したが、82年になり、難民の国境への送還、第3国定住のための他キャンプへの移動が相次ぎ、卒業できた者は220名ほどであった。

現在、自動車整備学校の設備の他に、UNHCRや他団体のバイクやエンジンを修理する簡単な修理工場がある。これは上級者コースの訓練を兼ねている。

カンボジア語による授業  
構造・理論を徹底的に学  
んでから実技実習に入る



また、女性スタッフ、生徒の子供や幼い弟妹を預かる付属保育所もできた。

難民たちに短期間で実力をつけてもらうため、自動車整備学校の授業には厳しいものがある。しかし難民たちの取り組み方は真剣そのものである。全課程修了者は第三国定住の申請の際にも評価される。

この自動車整備学校の運営経費は、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）から一部資金供与を受けている他は、JVCに寄せられる一般からの寄付によってまかなわれている。募金額全体が減少傾向にあり、自動車学校の今後の予算のメドはたっていない。

#### ● トンディーさん研修のため来日

JVCのメンバーであるタイ人技術者トンディー・ソムカネさんが、9月末から3週間日本に滞在し、自動車整備技術の研修と関係団体訪問をした。トンディーさんは、'80年のウボン自動車整備学校の開校以来JVCで働いている。現在カオイダン自動車整備学校の技術面を担当し、校長的存在。ウボン出身の33才。来日の主な目的は、最新の自動車技術の概要を知ってもらうこと、日本人の団体であるJVCをよりよく理解してもらうために日本という国を知って



研修を受けるトンディーさん

もらうことにあった。

技術研修ではトヨタ自動車の協力で、愛知県藤岡にある海外技術研修所で研修を受けた。トンディーさんはこの上級コースに特別に3日間参加してもらい、自動変速器について実習した。研修所内は教材が豊富にあり、彼はそれに目を輝かせ、帰タイ後、同じ様な物を作って役立てたいと語っていた。その後、エンジン生産工場や整備工場を訪れ、コンピューターによって無人化された生産ラインに目をパチクリさせていた。

タイで日本人ボランティアに接していたとはいえ、日本人の生活習慣やあたたかい社会の動きには、驚くことが多かったようだ。

3週間の研修を終えてトンディーさんは、今回日本で得たものを現場に持ち帰り、JVCの他のメンバーと協力して、いっそう頑張っけてゆきたいと語っていた。

なお、自動車整備学校については、「Trial & Error」のバックナンバーの記事、9号の「西崎憲司記念自動車整備士学校開校」、13号の「ハンディキャップをのりこえて」をご参照下さい。

—ご支援ありがとうございます。—

JVCの自動車整備学校の資金不足と、トンディーさんの来日が10月17日付の朝日新聞で伝えられましたところ、さっそく大勢の方からのご寄付が寄せられました。10月31日までに、現金口座振込み、合わせて 192,545円になりました。ほんとうにご協力ありがとうございました。（14pの“おたよりから”も合せてご覧下さい。）

JVCアフリカへ

# 可能性をさぐる

エチオピアの、内戦と旱魃による飢餓から、ソマリアへ流れ込んだ70万人の難民たち。海外からの組織的援助によって、食糧状態はかなり良くなってはきたものの、貧困にあえぐソマリアの負担は大きく、難民の自立への道は遠い。タイを中心にインドシナ難民の救済活動をおこなってきたJVCは、現在アフリカでのプロジェクト開設の可能性を検討している。UNHCR駐日事務所からの提案もあり、タイで実績をあげている自動車整備学校の有用性をさぐるためにソマリアへ向かった。

ソマリア国内には自動車メーカーの整備工場はなく、部品の製造業もない。故障車の部品は、近隣国ジブチ、ケニア、サウジアラビアや、ヨーロッパ、時にはシンガポールから取り寄せなければならず、それにかかる時間は4～6週間である。

ヒラン地区、ベレットウェン村にある整備工場で、難民や地元の人達と共に働いていたCARE（アメリカの民間救援団体）のイギリス人整備士にたずねてみた。

**Q. ここでの就業時間は？**

**A.** 朝の7時から、夜は12時を過ぎることもたびたびあります。給水車や緊急物資輸送用のトラックが故障したら、就業時間も何もありません。とにかく動くまでやるしかないのです。

**Q. どのような故障が多いのですか。**

**A.** 特に多いのは、ガソリンに砂や水が混ざったり、砂地のためベアリングが減りやすく、いたみ

が早いというものです。

**Q. ここでは、難民の人たちに自動車整備の技術を教えているのですか。**

**A.** 教えたいのですが、今は目の前にある仕事をこなすのが精一杯で、訓練校を始める余裕がありません。

**Q. このような整備の技術は今のソマリア難民に役立つものだと思いますか。**

**A.** ソマリア政府のこれからの意向によるところが大きいのですが、彼らをこの国に定住させるとなれば、農業による自立をすすめなければなりません。その一環として、灌漑用のポンプや農産物を市場に運ぶ車などの、機械整備の技術は必要になってくると思います。

●仕事を必要とする男たち

ソマリア難民のうち60%は15才未満の子供、30%は15才以上の女性、そして残り10%は15才以上の男性である。今年の6月に、国連社会開発調査団がソマリアの3つのキャンプを訪れ、



故障車の修理に追われる CAREの整備工場

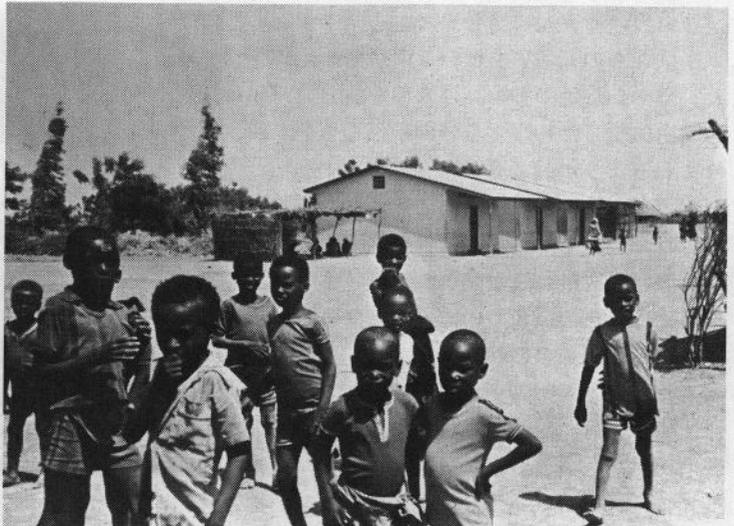
# ソマリアを訪れて

レポート：深津高子

興味深い調査報告を出している。難民の女性たちについては、負担は確かに今まで以上に大きくなっているが、家族の世話をするという彼女たちの社会的な役割りに大きな変化はない、という。ところが男性については、従来各家庭内の日々の食糧供給者であり、物事の決定権を与えられていたのが、キャンプの中では働くこともなく、彼らの将来は、個人の力ではどうにもならない政治の力が左右する。日々の些細な決断さえ、救援団体などが下すようになり、男たちには何もすることがない。

このような状況の中で、男性の難民への職業訓練のプロジェクトが必要となる。例えば、自動車整備の訓練などは、将来彼らとその技術を使って収入を得る手段にもなるし、生活に張りを持たせ、自立の一助ともなり得る点で、開拓が望まれる。

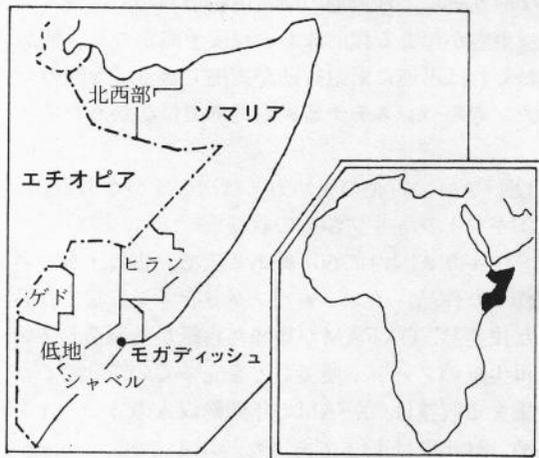
もう一つの可能性として、農業関係の訓練や援助があげられる。今度新しい団体が足を踏み入れると



ヒラン地区シガロウキャンプの子供達。奥の建物はイタリアの診療所

したら、北西地域(North-West Region)であろう。この地域は河がない。しかし、雨量は多いということなので井戸や、水がめや、タンクが必要である。ゴマやとうもろこしなど、砂地でも育ち、余り水を必要としない作物を導入しなければならない。簡単な農業機械の技術を伝えることも可能であろう。

もしJVCが、これから長期的にソマリアまたはアフリカに関わるのであれば、現在活動している団体を通じての援助という形をとるのが良いと思う。時間をかけてソマリアや近隣国が抱えている社会、経済、文化や民族間などの多くの問題を把握しておくなければならない。難民救援を考える時、多角的な視野が必要となる。そのためには、私たちはアフリカについて、知らなければならないことが沢山ある。



# 心から心へ

## ——誰でもかかわれる救援活動 イギリスのOXFAMを訪ねて——

深津高子／編集部

### 「世界の障害児に募金を！」

子供たちの元気いっばいな声が聞こえてきた。鮮やかな色のピエロの衣装をまとい、顔を真白に塗った10才ぐらいの子供たちが、踊りまわるようにして募金箱を差し出す。私たちがポケットの小銭を入れると、また走り去って行った。

国際社会福祉会議が開かれた、イギリス・ブライトン市の街角のできごとである。日本で見る街頭募金の悲愴なイメージとはかけ離れた、何とも明るい光景であった。

イギリスは、伝統的に民間の海外援助への関心が高い。その背景には信仰にもとづく奉仕精神、あるいはイギリス国内の移民や旧植民地問題などがある。例えば、ロンドン市内の掲示板にはられた様々のポスターの中に、「世界の貧困と戦おう」、「第三世界に目を向けよう」といったものが目についた。8月、すでにレバノンへの緊急救援を訴えるOXFAMのポスター、チラシが街中に出まわっていた。

商店街には必ず、様々な団体のチャリティー・ショップがある。障害者援護団体、老人を助ける会、世界の子供たちに援助するグループなどの店。ここでは、古着・古本・手工芸品などが、思わず手に取りたくなるようにディスプレイされ、売られていた。

イギリス最大の民間援助団体OXFAMを訪ねた。JVCは、カンボジア国内の井戸掘りプロジェクトをOXFAMと協同で行なうことになっている。

OXFAMは1942年、第2次世界大戦中に大学の街オックスフォードで住民が集まり、Oxford Committee for Famine Reliefを結成した。当時ナチドイツの占領下で苦しむギリシャの子供達に援助を送ったのが始まりである。時がたつにつれ対象はヨーロッパだけでなく、パレスチナやコンゴの独立戦争



思わず募金したくなる、愉快なピエロたち。近所の小学生のボランティア

の被災者にまで広がり、内容も緊急援助だけではなく、地域開発へと発展し、名称もOXFAMとなった。

'82年4月現在、OXFAMの関っている地域はアジア・アフリカ・中南米の83ヶ国に及ぶ。OXFAMは常にその地域へ人を派遣するだけではなく、すでにその土地で活動しているグループや団体があれば、彼らへの資金援助を行う。各現地に派遣されたエイドワーカーにより現地の最新情報がわかる。従って緊急事態が起こる以前にある程度予測がつく。何かがおこれば迅速に緊急援助が実施できる。今回のレバノンでのパレスチナ難民も例外ではなかった。

OXFAMの資金の集め方には次の4つがある。

### ①ギフトショップからの収益

イギリス国内に604軒ある店で、古着・身障者が作った作品、インド・バングラディッシュ等で作られた民芸品、OXFAMが集めた古紙から製造している再生紙のノートや便箋などを売っている。ここから集まる収益はOXFAMの年間総収入の3分の1を占め、81年度は43%であった。



OXFAM 本部の情報部の一室。世界各地の情報が集まってくる。

これらの店で働く店員にはシルバー・ボランティアが多い。遠く離れた街からバスを乗り換えてくるという75才のおばさんの顔は生き生きとしていた。引退した人々の社会への再復帰の機会をこのような形で提供している訳である。

② Covenant (契約) 制度による一般からの寄付

コベナントと呼ぶシステムで、4年間継続して、毎月OXFAMに一定額を振り込むことになっている。現在4万3千人がこれに加わっていて、個人でも企業でも参加できる。これにはイギリス政府も援助しており、各個人の負担額の43%をOXFAMは税務署に要求できる。つまり1ポンドの寄贈は1ポンド43ペンスになってOXFAMに送られる。

③ Banker's Order からの収入

②が経済的にできない若い人達を対象にしたシステムである。募金は定額ではあるがいつでもやめることができる。これには1万2千人が加わっている。

④ 古切手や古コインの収集による利益

これだけで月に9000ポンド(360万円)になる。その他に、常に新しい支援者を開拓するための努力がなされている。

以上がOXFAMの主な資金収集作戦であるが、政府からの助成金は総収入の10%を越えないようになっている。政策の変更などによって活動が左右されることが起らないようにするためである。

このようにして集まった資金(1981年で1,766万ポンド=約71億円)の70%が海外援助に使われる。その他OXFAMが特に力を入れている、国内の子供や若い人たちの開発教

育費として、資金の5%が使われている。第三世界の映画やスライド、援助に関する現場のレポートなどの出版物、また遊びながら貧しい人々の生活条件の触れることのできる、パズルも作られている。

OXFAMには開発教育に関して4名の教育アドバイザーがいる。また、ある中間技術専門の技師は、現地を忙しく飛び回りながらも、その合間に国内の技術専門学校で、実際に現地で使われている道具や機械を使いながら、適正な援助の方法を教えている。

今回紹介した事柄は、OXFAMの援助活動のほんの一部である。彼らは、とてつもなく大きく、気が遠くなるような長期的展望に基づいた運動体である。個人の心から始まり、資金や物資となり、最後に再び相手の心に辿り着くこの救援活動の過程で、これほど多くのボランティアが関わられる場所を提供し、尚かつ専門家の仕事ができる組織があるだろうか。技術者であろうとなかろうと、75才であろうと15才であろうと、金を持っていようが、古切手しか持っていまいが、誰でもどこかの場面で参加できるのである。現場で活動するだけが救援活動ではなく、実はそこに辿りつくまでに様々な人々が救援に関して下さっていることを忘れてはならないのである。人々の暖かい心が深くこの団体を支えていて、またそれなしには恒久的な社会福祉活動は続かないのだと、OXFAMを後にしながら思った。



OXFAMのチャリティー・ショップ。この75歳の婦人は定年退職後、ここでのボランティアを始めた。

## 槌田 博

T/E 16号で募集した「ちょっと違う家庭教師」にたくさん応募がありました。7月4日に第一回目の訪問をしてから、もう4ヶ月がたちます。

いま、16名ほどのボランティアがそれぞれ週一回訪問しています。対象の定住難民は、4ヶ所9家族に増えています。

毎週土曜日、定住難民のKさんの所へ訪問しています。Kさんには、奥さんと女の子が二人あり、家は横浜からバスで40分程度の雇用促進住宅の5階にあります。この雇用促進住宅には、ほかにも3家族の定住難民が住んでいて、Kさんの家でいっしょに勉強することになっています。

彼らは日本に着くとすぐ、大和定住促進センターで日本語の研修を3ヶ月受けます。その後就職して、就職先企業が手配した住宅に入居します。3ヶ月の研修のおかげで、ゆっくりと話せば日本語で意志が通じる程度の語学力があります。したがって、私たちの役目は、日本語を実際的に使うことによって訓練することや生活の上でわからない日本語があるときにその意味を説明することになります。

テキストは、大和定住促進センターで用いていた「日本語の基礎Ⅰ」を使っています。一度センターで勉強したことの復習となるので、練習問題を中心に1日1課ずつ勉強します。Kさんは、カンボジアにいたときには国語（クメール語）の教師でしたので、ときどき文法的に高度な質問をします。私たち

があたりまえと思って話している日本語も、説明しようとするといへんな労力が必要になります。

Kさんの弟は14才で小学校4年に通学しています。まだ日本語が十分でないので、学校では国語と算数に力を入れてがんばるといっていました。算数はカンボジアと同じでとてもよくわかるとうれしそうにいていたのが印象的です。文法的には助詞や活用が、発音では「す」と「つ」の区別が、むずかしいようです。「す」も「つ」も、共に「す」に聞こえて、クメール語で書くと同じ字になるそうです。だから「靴」なども「すす」になってしまいます。

テキストが終わると、雑談的な話し合いをします。日本語を話す練習も兼ねて、できるだけきちんと助詞なども付けて話をしてもらいます。逆に私たちが話をするときには、助詞の部分を強調して、使い方がよくわかるようにしてあげています。このところをしっかりとっておかないと、彼らはすぐに「わたし いった とうきょう きうのうね」という云い方になってしまいます。話題はだいたいテキストに出てきた例文からひろったり、身の回りのことをとりあげます。たとえばカンボジアのこと、休日のこと、などです。私たちが質問して彼らに答えてもらうことが多いです。

Kさんにどんな仕事をしていますかという質問をすると、「白い布地の上に型紙を置いて、塗料をのばして型紙を取り除いて花の絵をつける仕事です。」と答えてくれればよいのですが、これだけのことを話してもらうのに20分はかかりました。

授業も終わりに近づいてきたころ、Rさんがやってきます。Rさんは日本語の勉強はしたいのだけど残業があるのでおそくなってすいません。といって入ってきます。生活のためにもっと残業をしたいともいいます。日本語がまだ充分でない彼らの仕事は単純軽作業が多く、したがって給料も安い。彼らに能力がないのではなく、ただ単に日本語が上手ではないだけなのです。

午後10時ちょっと前、終バスぎりぎりの時間になると、来週また来ることを約束して、バス停まで全速力で走って東京に帰ります。



神奈川県伊勢原市に就職したラオス人一家

日本に定住した難民は、約1900人です。それぞれが就職して自立への道を歩もうとしています。しかしながら、彼らは毎年在留資格を更新しなければなりませんし、日本語を十分に使いこなすこともできません。そうしたわけで、あちこちで定期的に日本語を教えて下さるボランティアが望まれています。また、私たちは単に日本語を教えるだけにとどまらず、彼らとのコミュニケーション・理解も大切にしていきたいと考えています。ボランティアのS君やHさんは、彼らとの週に一度の夕食と会話をとってものしみにしています。

今、私たちが求めているもの、

- 週一回夜訪問できる日本語家庭教師。(T/E16号参照)
- 小学生用国語辞典(漢字にふりがなのついたもの)。漢和辞典。
- 定住者の家は東京からたいへん離れています。その交通費(往復で800円程度)を一部援助して下さる方。

—くわしくは、毎週金曜日夜9:00~10:30  
JVC東京事務所 樋田(つちだ)まで。  
Tel 03-316-3253

## 食卓を囲んで

三橋玲子

日本にやってきた難民たちの故郷、ベトナム・ラオス・カンボジア。その食生活は多彩で変化に富んでいる。このあいだ私は、日本人と結婚して5年以上日本に暮しているラオス人の婦人をたずねてみた。彼女はテーブルの上に所狭しとラオス料理を並べて待っていてくれた。皿には、緑も鮮やかな野菜が盛られている。日本にはないめずらしいものだ。

私「よくラオス料理をつくるんですか。日本で材料を手に入れるのは大変でしょう。」

Nさん「いつもラオス料理ばかり作るわけではありません。たまにはラオス人同志集まって、いっしょに食事をしますけど。材料は横浜の中華街へ行けば買うことができます。ここに住み始めて間もないころは、にんにくやナムプラー(ラオス語で魚醤油のこと)の匂いが外にもれて、『また、ラオス料理の匂いがする』なんて言われたこともあります。このごろでは回りの人も慣れてくれたのでしょう。」

料理には独特な香辛料や野菜を使うので、日本人には味も匂いもなじみのないものが多い。

調味料にしても東南アジア各地に見られる魚醤油(ベトナム語でヌクナム)は、ちょうど日本で私たちの使う醤油にあたり、味つけには欠かせない。ところが、これを焼いたり煮たりすると、独特のくさやを焼いたような匂いがする。そのため

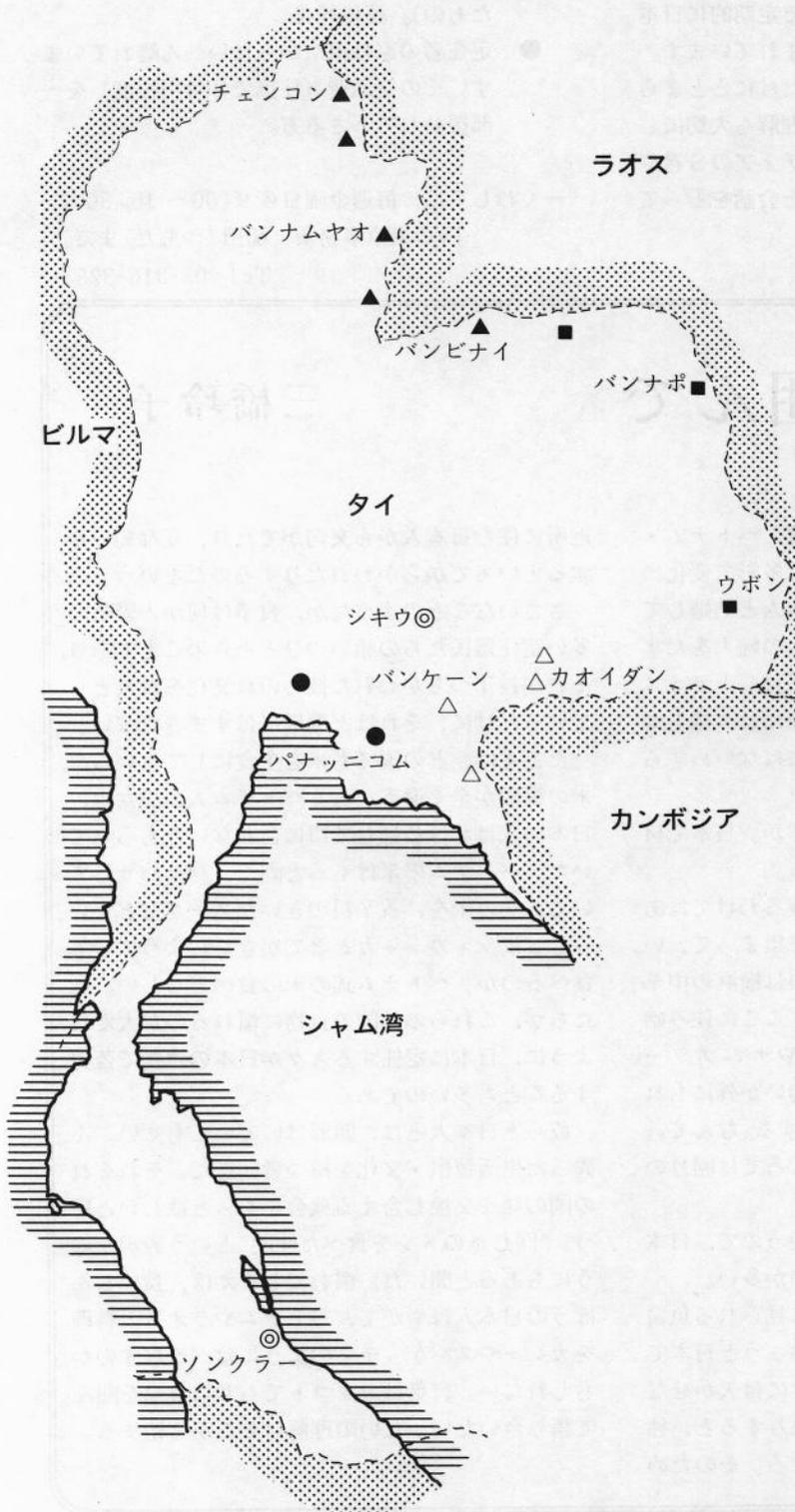
近所に住む日本人から文句がでたり、変な匂いがするといってからかわれたりするのだという。

ささいなことのようにだが、食事は何かと緊張の多い定住難民たちの憩いのひとときのことであり、それが長年つちかわれた彼らの食文化を背景としているだけに、それほど簡単にはすまされない。

たとえば、どの国でも米を主食にしてはいるが、米の種類が全く違う。あるベトナム人の少女は、日本の米はねばねばして口に合わないもたらしていた。ベトナムの米はもっと固く、バサバサしている。その米を、香辛料のきいたスープなどいっしょにシャカシャカと箸でかきこむようにして食べるのが、ベトナム式の米の食べ方らしい。私たちが、これらの外国の食物に慣れるのが大変なように、日本に定住する人々が日本の食物で苦労することも多いのである。

彼らと日本人とは、顔形は似ていてもずいぶん異った生活習慣・文化を持つ者同志だ。それぞれの国の味を交換し合える機会がもっと欲しいと思う。“同じ釜のメンを食べた仲間”という表現が向うにもあると聞いた。慣れてしまえば、食いしんぼうの日本人はやがて、ベトナムやラオスの料理をカレーやスパゲッティのように食べこなすのかもしれない。言葉はカタコトでも共に食卓を囲んで語り合いたい。互いの理解はそこから始まる。

# タイの難民キャンプ人口 (1982年9月30日現在)



△カンボジア人	78,972 (人)
バンケーン	17,470
カオイダン	32,468
その他	29,034
ラオス人	31,289
□ ラオ人 (26,414)	
バンナボ	11,881
ウボン	9,867
その他	4,666
▲ 山岳民族 (54,875)	
バンビナイ	32,683
北キャンプ	20,894
その他	1,298
◎ベトナム人	8,187
シキウ	6,975
その他	1,212
総合計	168,448
(ボートピープル	7,480)
(ランドピープル	160,968)

(タイ国最高軍司令部調べ)

タイ国内には、現在50万人のインドシナ難民が滞在しており、そのうち38万人がカンボジア難民である。タイ・カンボジア国境上に点在する難民村で劣悪な環境下に置かれているカンボジア難民の総数は30万人にもなる。9割以上が純朴な農民だったカンボジア難民はほとんどが母国に還ることを希望しているが、そのために必要なカンボジア国内の政治的・経済的安定はいまだに達成されていない。タイ側からの援助が彼らの命をつないでいるのが現実だ。

### ▶ 国境上のカンボジア難民の医療状況

インドシナ難民は「緊急事態」は脱して、タイ国内のキャンプ地の難民は職業訓練を受けたりして中には第三国へ定住し新しい生活を始めているものもある。しかし、これらタイ国内にいる難民に比してタイ・カンボジア国境上にいる30万人のカンボジア難民にとっては、まだ「生き残ること」が第一の目標になっている。約20ヶ村ある難民村のうち、欧米諸国の医療関係団体が入っている村は6～7ヶ村でそれも3ヶ村を除きあと総て1日、1～2時間の巡回診療でしかない。カンボジア問題の政治的不安定さを反映し、国境では頻繁に戦闘が起きている。民間人も含む戦闘による負傷者のうち、運の良い少数の者は病院のある村に運ばれたり、巡回診療に来

た車に拾われ病院に運ばれ、手術や手当を受けることができる。しかし多くの者はそれらの幸運に恵まれず、病院のある地域に辿り着くまでに息絶えてしまう。戦闘のない時でも、ベトナム戦争以降、今日に至るまでアメリカ軍、タイ軍、ゲリラ等によって仕掛けられてきた地雷による負傷者、散発的に起る銃撃による負傷者は後を断たない。

外科に限らず国境の難民村では内科関係の疾患も多い。特にひどいのは険しい山中にある村で、難民の多くが、恒常的な栄養失調状態にあるため、病気にに対する抵抗力が弱っており、マラリア・貧血・赤痢・結核をはじめとする数々の病気に冒されている。今も彼らは、食糧援助と医療援助を必要としている。

### ▶ 民間による難民医療開始

3年前からタイで、カンボジア難民救援活動を続けてきた日本政府派遣の難民救援医療団は外科病棟を担当し、国境地帯から移送されて来る多くのカンボジア難民の命を救ってきた。しかしこの医療団も世論が、インドシナ難民のことを忘れ去り、医師達が集まらなくなってきた、日本の国内事情を背景に今年一杯で派遣を中止する予定である。

JVCでは、まだ医療を必要としている現地の状況にかんがみ、国境で行なってきた「物資輸送プロジ

ェクト」に加えて「医療プロジェクト」を設けるべく、関係各機関との交渉を続けてきた。このたびタイ軍最高司令部の同意が得られ、WFP（世界食料計画）の傘下で間もなく活動を開始することになった。

青年会議所・関東地区協議会を中心とした若手医師らの尽力により、第一期4人のチームが11月中旬には国境地帯に向うことが決定している。

第一期は本年末までとし、移動診療車によるレントゲン診療を行うかたわら、次期からの本格的医療活動のための調査と準備を進める計画である。



村名	人口(人)
ナムユン	14,300
チョンチョム	14,000
オーボック	3,550
バンバラネー	3,450
バンサンゲー	15,765
ノンサメット	43,103
プノムチャット	5,486
コクタハン	6,145
ノンチャン	43,935
ノンブルー	11,000
タ・プリック	18,086
ボーライ	17,000
ソクサン	8,000
タ・ルワン	14,000

# JVCプロジェクト

1982年10月20日現在

活動地名	活動内容	活動費 拠出者名	担当者
ウボ (ラオス人 キャンプ)	<b>自動車整備学校</b> 第3国定住希望者が以前より少なくなってきたので、技術修得に必要な機械工作の技能に、より多くの時間を費すことにした。これにより、簡単な機械や部品は、自分たちで造れるようになると思う。 9月14日より、1ヶ月コースで発電機械を開講。教師1名、生徒29名。科目は、電気理論、構造、機能、整備、設置基準などである。 また、給水ポンプ科を、来月から開講する予定である。	UNHCR 一般寄付	大野 直樹※ 寺島 正一 小田中勝己
	<b>織物学校</b> 生徒募集を随時おこなうことにした。それと同時に、まゆから糸を紡ぐこと、糸を染めることなど、今まで教えていた中間技術以前のことも教えることにした。生徒数が増えてきているので、来月から教師を増やし、授業内容の充実を計る予定である。	裏千家	金村 悦江 ピンポーナ 佐野奈緒美 松本 一仁
	<b>図書館</b> 現在、冊数約1,300冊、1日の利用者50~60人。 小学生の授業時間に合わせ、開館時間を延長したので、利用者数が増大した。	UNHCR 一般寄付	
	<b>石けん学校</b> 9月16日から授業開始。LYE(灰汁)クラスと苛性ソーダクラスでそれぞれ1週間ずつ授業を受け、2週間で卒業となる。 9月25日にバンコクで開かれたチャリティバザーに、消毒液入りトイレットソープ47個を出品したところ、全部売り切れた。 <b>ハンディ・クラフト</b>	UNHCR	磯辺 元秀
タイ・カンボジア 国境	8月より、4つの難民村の小学校を対象に、教育物資供給プログラムを再開し、小学校の調査、学用品(ノート、鉛筆、チョーク)、教科書(読み書き、算数)および、教室補修のための資材の供給を行なった。各小学校の教育レベルは異なっているので、それぞれに合わせた援助を行なうことが必要となるだろう。また、WFP/UNBROは、国境地域でのボランティア活動の安全確保のため、無線網を充実させた。	西本 願寺 W F P	ニール・リー 金子 一弘※ 竹内 俊之
カオイダン (カンボジア人 キャンプ)	<b>自動車整備学校</b> 6月生は9月に卒業。9月生は113名。 混乱期に就学年令をすぎた人や農民層が、学習についていけなくなるのを避けるために、サケオキャンプのJSRCに依頼して、基礎的なテキストを作成中。作業場と上級コースのための新校舎が完成し10月から利用する予定。上級コースの拡充をはかるため、ホンダの機種他に、スズキのオートバイ、エンジン各2台、ホンダのエンジン1台、工具15台分を購入。これに伴ない、上級コースの授業内容も改善していくつもりである。	UNHCR 千葉 県	入江 智幸※ 清水 洋子 トンディ 佐藤 和美 嶋 紀晶 鶴田 三芳
バナニコム (第3国定住待ち の人達の一時収容 施設)	<b>ラオス・カンボジア・ベトナム子供センター</b> 停電の日は、折り紙をしたり、歌をうたったり、電池を使ってダンスの練習をしたりしている。9月17日に開かれたダンスの発表会は参加者41名の大がかりなものだった。 <b>図書活動</b> スライドの台本のモン語、ラオス語への翻訳進行中。 字の読めない子供のために、読書サービスの時間を多く取り、また、本の取り扱い法も指導して行くつもりである。	神奈川県	滝沢 文男 山崎 敏光 木村 陽子 ティアン

## JVCプロジェクト

活動地名	活動内容	活動者名 活動者名	担当者
	<p><b>スポーツ活動</b> 9月8日、30日にバレーボール大会、15日に卓球大会、9日と24日にサッカー大会を行なった。クメールチーム、ラオスチーム、ラオス・ベトナム混合チーム、ホールディングセンターチーム、JVCチームが参加して優勝を争った。 子供のサッカークラスは、よい先生が見つからなかったため、ルールの説明が十分できず、試合よりもゲームをすることが多い。今後改善する必要があると思う。</p> <p><b>日本語学校</b> 8月開講の5期生（ラオス語クラス）が2ヶ月めに入り、「お元気ですか。」などと声をかけてくる。子供クラスは、年令と学力の差を考慮して2クラスに分ける。9月末に内定した定住希望者73名のために、10月から予備クラスを設ける予定。 9月13日、主婦ボランティアの希望により、日本食を味わってもらう会を開き、生徒たちは、初めて口にすると日本の味を楽しんだ。</p>	千葉県	谷沢 一江※ 加島 伸彦 伊藤千鶴子
クrontooイ・スラム (バンコク市内のスラム)	<p><b>図書館</b> 新しい窓の取り付け、本棚の作成をした。</p> <p><b>電気工養成訓練所</b> 第5期4ヶ月コースの2ヶ月に入る。今回初めて女性の受講者があった。</p> <p><b>学費援助</b> 新たに7名の児童への援助を決定した。なおJVCでは、奨学金援助事業の基盤を確立するため、「デック・スラム奨学金」を正式に設立した。ご協力をお願いします。</p>	神奈川県 一般寄付 モラロジー	福村 州馬※ 小川ひとみ スリン ソーカバニチ 高塚 政生 ブラキット
給水プロジェクト (東北タイの農村)	今月から給水チームは、本格的活動を開始した。1982年12月までに、ブリラム県バンクルアット郡で8ヶ村合計24本の浅井戸を建設する予定である。今月はそのうちの2ヶ村で工事を開始し、3本の浅井戸の建設にとりかかった。6ヶ所で工事を始めたが、地層状況、村人との協力関係などで進行状況に大きな違いができた。	モラロジー	木村 信夫※ スラボン ルーチャイ 佐藤 正喜
ホーキンス・ロード (シンガポール ベトナム人キャンプ)	<p><b>管理運営全般</b> <b>環境整備・公衆衛生</b></p>	UNHCR	マリー・ マリティヌス・ キャマル
タケオ (カンボジア国内)	井戸掘り	OXFAM L W S	箕田 健一※
農村開発プロジェクト	タイのラムカムヘン大学の農村開発ボランティア活動に参加し、図書館や小規模ダム建設を手伝う予定。		山本 敏幸※
バンコク事務所	熊岡 路矢※、深津 高子、田川 和子、武田 恵治、タマヌン、ポンピモンチャイブーン、石川 武、上田 農子、磯村 美知子、深谷 範子、吉川万里子、川合万里子、海老原美子、柴田 友子、木上 伴子、石定 知子、岡崎 律子		
東京連絡事務所	星野 昌子※、田島 誠他20名		

※はリーダー

## おたよりから

●こんにちわ。10月17日の新聞を読んでいたら「タイの難民自動車修理学校がピンチ」という記事を目にしました。日本は難民の人々への援助が少ないと言われています。でも多くの難民救済民間団体があり、活躍していることも事実です。

私は、何かしたいと思いつつもなかなか実行できません。今はお金でしか手伝えなくても、いつかきつと働いて手伝えたらと思っています。

難民の人が一生懸命勉強して、その学校を発展させていけるようになるといいと思っています。だからこそ、このピンチを切り抜けてほしいのです。本当に少ないお金ですが、どうか使ってください。心から応援しています。(M.Mさん, K.Mさん)

●前略 朝日新聞で拝見致しました。母が入院している為現金の持ち合わせがありません。私の持っているもので一番高いものなのですが、これをお役立て下さいませんか、お願い致します。(H.Aさん)

●私はある人から「何か奉仕活動のようなことをする時、お金ばかり出して自分自身は参加しない。誰かにやってもらう、ということが非常に多い」ということを聞きました。

しかしやっぱり今の私には一番簡単なお金を出すことしかできないのです。

みなさん、がんばってください。

みなさんの上に神様からの豊かなお恵みがありますようにお祈りいたします。(匿名のお手紙から)

## JVCから

トンディーさん来日を伝える新聞記事をごらんになったたくさんの方からご寄付とお手紙を頂戴しました。ボランティア一同、心からお礼申し上げます。財源確保に頭を痛めている時期であるだけに、みなさまの御支援は大きな励しになりました。それぞれに心のこもったお金や品を最も有効な形で難民の人々へ送り届けることの責任を、あらためて痛感しております。

お小遣いから、少なからぬ額を送って下さった、

中学・高校生の方、再びタイへ行こうと貯めた渡行費をそっくり置いていってくれたボランティアOB、十字架のついた18金のネックレスを送って下さったAさん、そしてその他にも教材の援助を申し出て下さった方、ボランティア志願など、たくさんのお問い合わせをいただきました。ほんとうにありがとうございました。どうぞ今後ともよろしくお願い致します。

## 編集後記

ウボンキャンプから送られてくるハンディクラフトは、あちこちのバザーに置かせていただいたおかげで、ここのところ売り上げが倍増しています。

難民の女性たちが、たんせいこめて織り上げた、財布、ショルダーバッグ、テーブルセンターなどの売り上げは、彼女たちの手に返るだけでなく、募金やJVCの活動資金として還元されています。

このハンディクラフトの販売は、難民と呼ばれる人々と私たちを結ぶひとつの方法でもあります。このトライアル・アンド・エラーもそうありたいと思っています。どうぞ率直なご意見・ご感想をお寄せ下さい。

## ファイダー

表紙写真撮影 押原 謙

照りつける日差しの中、朝から待ってようやく手にした配給の米と塩。ずっしりとした手ごたえに、笑顔がうかぶ。いつ戦闘が勃発するかわからない緊迫した毎日が続く。

タイ・カンボジア国境の難民村ノンチャンにて

# 会 計 報 告

## 諸経費の内訳

## 9月分会計報告

単位：バーツ

キャンプ名	プロジェクトの内容	金額
パナニコム	日本語学校, 教育レクリエーション	56,788
クロントゥーイ	図書購入, 図書館, 職業訓練, 奨学金	55,942, <sup>60</sup>
ウボン	織物学校, 図書館, 自動車整備学校, 石けん学校	78,069, <sup>50</sup>
国境	物資輸送	40,532
カオイダン	自動車整備学校	10,899
給水プロジェクト	給水活動	15,000
農村 "	農村調査	7,152, <sup>50</sup>
バンコクボランティアホーム	家賃他経費	3,600
バンコク事務所	経費	140,921, <sup>24</sup>
チェンコン		2
カンボジア		3,000
合計		411,906, <sup>84</sup>

内 訳	収入の部	支出の部	残 高
前月繰越金			5,953,249, <sup>84</sup>
寄付送金	307,286		
受取利息	144,073, <sup>79</sup>		
雑収入	500		
仮払金		160,179, <sup>40</sup>	
預り金	24,050		
借入金		2,000	
東京勘定		200,000	
諸経費		411,906, <sup>84</sup>	
U.S \$ 評価額		45,998, <sup>17</sup>	
合計	475,909, <sup>79</sup>	820,084, <sup>41</sup>	5,609,074, <sup>22</sup>

現金及び預金残高 5,609,074,<sup>22</sup>



### JVCでは

難民救援活動をより充実したものにすため、以下の募金を受け付けています。ご協力をお願いいたします。

- **インドシナ難民救援募金** (9月小計 124,138円)  
東京事務所を窓口にしてバンコクに送られ、各難民キャンプでのプロジェクト費にあてられています。
- **ボランティア募金** (9月小計 20,000円)  
現地で活動しているボランティアのための栄養および健康管理費にあてられます。
- **クロントゥーイ・スラム募金** (9月小計 15,000円)  
バンコク、クロントゥーイ・スラム内の図書館および電気工養成訓練所の運営費などにあてられます。
- **デック・スラム奨学金** (スラム児童奨学金)  
バンコク市内スラムの児童への奨学金などの学費援助一口いくらでも可。(目標総額5千万円)

#### ●レバノン難民救援募金

JVCは、レバノンのパレスチナ難民や戦乱に巻き込まれたレバノンの人々に対し、何らかの形で援助ができないか検討中です。JVC独自の活動、又は現地で活動している団体を通じて、医療関係の援助に充てる予定です。

#### 送金方法

住所、氏名、募金種目名を必ず明記の上、下記の郵便口座にお振り込みください。

口座番号：東京9-27495

加入者名：JVC 東京事務所

※ 会計の都合上、「Trial & Error」の購読申し込みとは別にご送金くださるようお願いいたします。

JVCとは

**Japanese Volunteer Center** は1980年2月、タイの首都バンコクで設立された民間救援団体です。

1979年の暮れのインドシナ難民の大量流出を、きっかけに、日本から救援に駆けつけた若者と、現地タイですでに活動を始めていた日本人たちが一体となり、現在の組織の原形ができてきました。

当初はタイ・カンボジア国境への物資輸送など、欧米の民間救援団体を補佐するものでしたが、現在は日本から寄せられる寄付金と各支援団体の援助金により、独自のプロジェクトを展開しています。

JVCは、難民、そしてそれと同様の窮境にある人々に、できる限りの援助を継続的に行うことを目指しています。常時50人近くの各国のボランティアが、タイ国内のラオス・ベトナム・カンボジア難民キャンプや、バンコクのスラム街において活動を続けています。

また今年に入ってから、タイのみならず、カンボジア国内での井戸掘りやシンガポールでの活動を始めました。

東京事務所は、こうした活動の情報、人材、資金を現地と結ぶ日本の窓口として機能しています。



**発行所** JVC東京事務所  
 〒166 東京都杉並区阿佐谷南  
 1-1-5 三笠ビル3F  
**最寄駅** 丸の内線新高円寺駅  
**TEL** 03(316)3253

**バンコク事務所** *Japanese Volunteer Center*  
 67 South Sathorn Road  
 Bangkok, Thailand  
**TEL** 286-4857

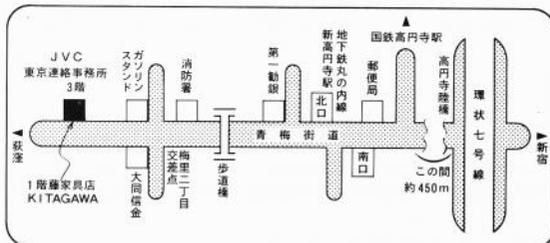
**京都連絡事務所** 京都市上京区寺町今出川角  
 光月堂2F TEL075(256)1382  
 〈海外ボランティア情報センター内〉

昭和57年11月20日発行  
 毎月20日発行

**発行人** 星野昌子  
**編集人** 本橋栄  
**表裏表紙撮影** 押原譲  
**印刷所** (株)ベスト・プリンティング

「Trial & Error」年間購読申し込み方法

一般購読者 1口 3,000円 (1冊送付)  
 賛助購読者 1口 10,000円 (4冊送付)  
 郵便口座番号 東京3-54186  
 加入者名 JVC東京事務所  
 住所、氏名、購読開始月をお書き添え下さい。



定価 1部300円